Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-07-17

ゼミ(研究指導)と卒業論文

三古, 展弘

(Citation)
経済学・経営学学習のために,2021(前期号):63-72

(Issue Date)
2021-04-01

(Resource Type)
departmental bulletin paper

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/E0042435

ゼミ（研究指導）と卒業論文

三　古　展　弘

1. ゼミ（研究指導）とは

ゼミ（研究指導）は大学での学びのハイライトと言えると思います。私は，かつて，工学部土木工学科の学生でした。1学年の定員は50名でした。学部4年生で研究室に配属されるとき，1人の先生に対して学生は2〜3人が配属されることに決まっていました（0人や1人しか配属されない先生が出てはいけない）。文系のゼミと比べると1学年あたりではかなりの少人数だと思います。（ただし，大学院生が文系よりも多いので単純に1学年あたりでは比較できない部分もあります。）また，学部生も研究室に配属されると，学生研究室に机が与えられ，多くの時間を研究室で過ごすことになりました。4年生になると「学生生活＝研究室生活」と言ってよいくらいになり，学生生活の中で研究室の占める比重は非常に大きいものになりました。

神戸大学の経営学部ではゼミの定員は年にもよりますが最大12名程度で，学部生に学生研究室は割り当てられません。しかし，ゼミは経営学部でも大切にされており，ゼミのメンバーと過ごす時間は他の講義と比べて圧倒的に多いことでしょう。経営学部の学生便覧には「ゼミナールに所属しなくても卒業することは可能です。しかし，ゼミナールに所属せずに卒業することは，神戸ステーキの店に行ってステーキを食べずに帰るようなものです。必ずゼミナールに所属するようにしてください。」と書かれています。また，ある先生からは同様の意味の別の表現として「大学で講義だけを受けてゼミで勉強しないのは，刺身を食べないでツマだけ食べているようなものだ。」という話を聞いたことがあります。

ゼミでの他の学生との議論や，指導教員からの指導は非常に貴重なものです。大学での講義の中には，定まった教科書の内容を教えることが求められているものもあります。そのような講義では，誰が教えても同じような内容になることも多いと思いますし，そうでなければ困るものもあります。私は学部生相手の講義の中でも，私だけしか教えられない（主に，私が研究で発見した成果で，私がその問題については世の中で一番説明できる）ことを少しでも入れ込むようにしてきました。しかし，ゼミはその比ではありません。ゼミで取り組む内容は，その先生からしか学ぶことができないことがほとんどでしょう。また，自分自身が勉強・研究したことについて，専門家である大学の先生から個別的具体的に助言をしてもらえるという機会はめったにあるものではありません。社会に出てからこのような機会を得るためには，専門家（大学の先生に限らない）にそれなりの対価を支払う必要があります。大学の授業料を払う値打ちはゼミにこそあると思います。

なお，本稿では，ゼミと研究室という用語を用います。これは，私が所属していた工学部では研究室，神戸大学の経営学部ではゼミという用語が使われているためですが，同じことを言っていると思って構いません。

2. ゼミ選びのヒント

ゼミを選ぶときに最も大切なのは，研究する内容です。皆さんは大学や学部を選ぶときに，いくつかある大学や学部の中から，自分自身の関心のある内容を勉強できるところを選んだと思います。ゼミを選ぶときも同様に考えると良いと思います。大学に入学する前から，入りたいゼミが決まっていて，ゼミ選択について悩む必要が全くないという幸せな人もいると思いますが，そのような人は決して多数派ではないと思います。ひとまず，皆さんが大学を選ぶときに，どのようなことを勉強したいかを真剣に考えたように，ゼミを選ぶときにも，どのようなことを研究したいのか真剣に考えてください。

そのためには，ゼミの情報を収集することが大切です。2年生前期までの学部の講義を担当していた先生であれば，そのときの講義の印象が最大の情報になると思います。また，学部ホームページの教員紹介や各教員の個人ホームページも参考になると思います。ホームページでゼミ活動に直接言及していなくても，論文のタイトルなどから研究の関心は分かると思います。また，インターネットで検索すれば，それ以外にも様々な情報を入手できることでしょう。

このような情報源は非常に役に立ちますが，教員本人から得られる情報に勝るものはありません。教員によるゼミ説明会や，ゼミ見学の機会があれば，必ず参加するようにしましょう。研究テーマとして具体的に思い描いているものがあれば，そのテーマについて話してみることをお勧めします。私の場合は，そのテーマについてどの程度指導が可能かということや，そのテーマに関連して私の知っていることをお話しすることが多いです。私の知っていることを話すことが，学生にとってどのような意味があるかは分かりませんが，関心のあるテーマについて会話をすることで，学生の適切なゼミ選択の助けになればよいという思いがあります。同じような質問をほかの先生にもすれば，どちらのゼミが適切か比較することもできるでしょう。

研究内容以外に大切なのがゼミの雰囲気です。特に教員との相性は大切だと思います。ゼミにはそれぞれの方針や雰囲気というものがあり，そのような環境に自分自身が合うのか少し考えてみてください。ゼミに合うかどうかは，実際に入ってみないと分からないことも多いと思います。それでも，ゼミ説明会やゼミ見学に参加することで，少しは感じることができると思います。現役のゼミ生と話す機会があれば，聞いてみるのもいいでしょう。

3. 卒業研究の進め方

ゼミでの最大の成果物は卒業論文です。卒業論文は研究論文ですから，今ま

で講義で提出した課題やレポートとは全く性質の違うものです。研究論文では，今まで誰も解明していなかった問題に取り組んで，何らかの知見を発表することが求められます。卒業論文もその例外ではなく，世界初の内容を含んでいなければいけません。

しかし，どのように研究を進めれば卒業論文の要件を満たすのか，不安になると思います。この辺りは，もちろん自分自身で勉強することも大切ですが，同時に指導教員やゼミの先輩に聞いたり議論したりするのもよいと思います。

ゼミでの活動は，実社会にも通用する様々な技術を磨ける場でもあると思います。いくつか思いつくものを挙げます。

今までに経験したことのない困難な課題に取り組む

卒業論文では今までに誰も明らかにしたことのない新しい課題に取り組むので，たくさん勉強しなければいけません。仕事でも，今までに取り組んだことのない業務であれば，そのための勉強が必要なのは当然でしょう。数学など苦手な人もいるかもしれません。しかし，研究であれ仕事であれ，必要であれば苦手であっても勉強するしかありません。

長期間にわたって同じ課題に取り組み，その成果を所定の形式で期限までにまとめる

講義のレポートでも期限を厳守する必要がありますが，卒業研究はより長期にわたるものです。その中で，研究計画を立ててマネジメントするということは，企業でプロジェクトに取り組むことにも通じると思います。また，卒業論文には所定の形式があります。表紙，要旨，目次，参考文献の書き方や，本文中での図や表の挿入の方法など，決められた形式に従ってください。企業でもプロポーザルや報告書など，決められた形式に沿って文章を書く機会もあると思います。

他人の協力を上手に引き出す

問題にぶつかったときに，自分自身で勉強して解決することも大切ですし，その努力はするべきだと思います。（書籍，論文，ウェブの記事を読んだり，講義や公開のセミナーに参加したりして勉強できるでしょう。また，Youtubeの動画でも分かりやすく解説しているものがありますので，非常に有用です。）しかし，他人の力を借りたほうが良いことをいつまでも自分自身で抱え込んでいることは得策ではありません。このときに注意したいのが，あなたが力を貸してほしいと頼んでも，相手にはそれは義務でも何でもないということです。義務でもないことに労力を使ってもらうわけですから，相手の労力をできるだけ少なくして，あなたはその労力に応える努力をすることがマナーです。

他人の力をほんの少しだけ借りることで，研究が飛躍的に進むことがあります。例えば，プログラムで何かを計算したいとき，計算方法を変えると計算時間が圧倒的に短くなることもあります。あなたが思いついていない計算方法の名称を教えてもらうことなどは，1分もかからない短い会話かもしれません。しかし，その方法を教えてもらった後，あなたがそれを勉強してプログラムの中に組み込めば，たった一言の助言が非常に大きな威力を発揮します。そのためには，あなたがその計算について真剣に考えて実際に自分自身で作成したプログラムを使って格闘しておく等の事前の準備と，教えてもらったあとそれを勉強してプログラムに組み込むという努力が必要です。

では，別の例として，論文の原稿の添削を指導教員にお願いするときはどうでしょうか。このようなとき，（私もしたことがありますが）論文をそのまま送りつけるのは感心できません。論文の中でどこを特に見てほしいのか，必ず見てほしいのはこの部分で，次に見てほしいのはこの部分，というようにすると，見るほうも助かります。特に，前回見てもらった原稿をもう1回見てもらうときは，どこを修正したかが伝わるようにすると親切です。また，前回指摘されたところの修正漏れがあるのは失礼なので気を付けましょう（意図があって修正しないときはそのことを説明してください）。

データや資料の管理

論文にまとめるのは自分自身で分析した内容ですが，それをきちんと管理しておくことも大切です。論文中で記載している内容について求められたときに，その資料をすぐに出せるようにしておいてください。例えば，統計分析を進めることを考えてみましょう。研究の過程で新たにデータを収集した場合，最初に作成したデータファイルとは異なるデータファイルが出来上がることになります。また，同じデータファイルを用いて分析した場合でも，モデルで採用する説明変数を変えれば異なった結果が得られることになります。後から，その結果を再現しようとしたときに，どのデータとプログラムを使ってその結果が得られたのか，分かるようにしておいてください。

4. 卒業論文の書き方

経営学部では卒業論文は 20,000 字以上という字数制限があります。20,000 字という文字数に圧倒され，過剰に文字数を気にする人がいますが，文字数自体は本質的な問題ではありません。文字数を気にして，早く執筆を始めたいと分析結果もないのに言い始める人がいますが，執筆するに値する内容がないのに書けるはずがありません。まずは，執筆するに値する分析を進めることが重要です。執筆に値する内容を深めていって，それをまとめていたら知らないうちに 20,000 字以上になっていた，というくらいがちょうどよいと思います。

20,000 字以上というのは，論文の内容が充実したものでなければならないことを伝えるメッセージとして，それを客観的に表す基準を明確に設けることが難しいために，便宜的に設定されたものだと思います。意味のない文章を何万字書いても論文にはなりません。論文自体は必要な内容が過不足なく含まれていれば，短く簡潔にまとまっているほうが良いに決まっています。字数稼ぎのために不要なことを書いた冗長な文章を，誰が好んで読みたいと思うでしょうか。ちなみに，私が在籍していた名古屋大学の土木工学科では卒業論文 20

ページ以内，修士論文 35 ページ以内という制約がありました。（後日，私の卒業論文の字数を数えたところ，本文は 20 ページで 20,000 字を少し超える程度であったと記憶しています。）

人に読んでもらう文章は分かりやすく書く努力をすることが大切です。適切な章，節，項に分けて，それぞれに見出しをつけることもひとつの工夫です。重要なところは，太字，斜体字，下線などで強調することも視覚的に有効です。箇条書きにするのも，理解を助けます。特に，図や表は，視覚に訴えるので，読者の理解を容易にします。また，分かりやすい図や表を作成すること自体が，執筆している本人に深く考えることを要求しますから，論文の質自体が改善されることになります。

皆さんも読者として多くの文章に接してきたことと思います。その文章の中には，あなたが分かりにくいと感じたものも多くあったことでしょう。一般の書籍や新聞，取扱説明書，案内文のほか世の中には文章があふれています。あなたが論文を執筆するときには，そこに読者の目があって，あなたが他人の文章を批判的に読むのと同じように，読者があなたの文章を批判的に読むことを想像しましょう。

読者は思ったほどに，他人の文章を理解する努力をしてくれません。論文の中で間違いなく自分自身の言いたいことを書いていても，それが読者に伝わっていないとするのなら，その責任は分かりやすく書くことに失敗した著者にあります（そうではないこともありますが，執筆した自分自身にも責任があると一度考えてみてください）。研究者は論文を雑誌に投稿すると，雑誌の編集者が選定した査読者によって審査されます。査読者のコメントには，著者が本文中で間違いなく書いているのに，そのことが伝わっていないという場合があります。論文が分かりにくいというのは論文自体の大きな欠陥です。

分かりやすく説明するためには，研究の中で何が大切かを理解する必要があります。それは，研究成果を決められた長さ（文章の長さや時間的な長さ）で説明するときにも求められます。論文内容を最も短くまとめるものは，論文題

目（タイトル）でしょう。研究の内容や新規性を，せいぜい１行か２行で表さなければなりません。また，論文には要旨（アブストラクト）というものがあり，経営学部では A4 用紙２ページ以内に論文を要約する必要があります。経営学部では必須ではありませんが私のゼミでは卒業論文発表会を行っており，ゼミ生（同級生や後輩が主な聴衆）の前で報告することを求めています。発表時間は約７分ですから，要点しか伝えることはできませんし，伝わりやすい図等を用意する必要があります。

5. まとめ

ゼミ生の研究の進め方を見ていると，卒業論文に取り組む姿勢に大きな違いがあることに気づきます。全員が神戸大学経営学部の入学試験あるいは編入試験に合格しているわけですから，ある程度の学力があることは間違いありません。しかし，研究で一番大事なのは「やる気」だと思います。研究には，ひらめきなど「やる気」だけでは説明できない部分もあります。しかし，研究の多くの部分は「やる気」さえあれば解決可能な地道な作業です。例えば，データを集める，データを集計する，などの作業は「やる気」をもって粘り強く取り組めばできることです。しかし，「やる気」がなければどうしようもありません。

私のゼミでは，卒業論文のテーマは学生の希望をできるだけ尊重するようにしています。学生の希望するテーマの中には，研究として成立するのか当初不明なものもありますが，学生に「やる気」があるとそこから面白い展開があります。研究テーマには，(1) 教員と学生のどちらも関心がある，(2) 学生だけが関心がある，(3) 教員だけが関心がある，(4) 教員と学生のどちらも関心がない，という４種類があると思います。上の場合は，最初は (2) からスタートしていますので，私は学生の話を聞いているだけです。しかし，学生が継続して粘り強くやる気を持って取り組むと面白いことが起こります。私もだんだ

ん内容について理解し，研究として成立するような提案をしていくことになります。すると，私だけで研究したら決して取り組むことがなかった研究が出来上がることになります。このことは，私にとっても新しい世界の発見であり，学生を指導することでしか得られない成果でしょう。（共同研究とも似ていますが，相手側だけが興味のあるテーマは共同研究に発展しにくいと思います。）一方で，(2) からスタートして学生がやる気を失うのが最悪のパターンで，そうなると，(4) の状態に陥ります。誰も関心のない研究テーマになってしまいますから，そんな研究が進むわけがありません。

長期間にわたってゴールの見えない課題に取り組むときには，気持ちの持ち方も大切です。どのような研究成果が得られれば卒業論文として認められるのか不安になることもあるでしょう。しかし，基本的にはやる気を持って精一杯研究をすれば，それで良いと思います。たとえ，世界で初めてのことに取り組んで，そこから思ったような結果が得られなくても，そのこと自体を成果として誇ってよいと思います。目標は高く，そして結果を気にしないで目の前のことを淡々と（失敗しても，それが織り込み済みであるかのように必要以上にショックをうけず）進めていくことが大事だと思います。

いずれにしても，あなた以上にあなたの卒業論文について考えてくれる人は世の中にはいません。指導教員は，アドバイスはしてくれますが，答えは教えてくれませんし，答えを知らないと思ったほうがよいと思います。卒業論文の内容自体が世界で初めてのことですから，指導教員が簡単に答えられる内容であればそれは既知であり，卒業研究の対象にはなりません。皆さんは，卒業論文で 1 つのテーマを研究します。指導教員にとっては，あなたが取り組んでいる卒業論文は，いくつか抱えている研究の 1 つに過ぎません。教員は学部ゼミ生（10 人以上になることもある）の卒業論文の指導，大学院生の論文指導，自分自身の研究，講義，学内業務，学外業務など多数の仕事を抱えています。卒業研究の内容については皆さんのほうが知っていて当然です。「卒業論文の内容で指導教員に負けてどうするんだ」というのはゼミの先輩から後輩への激

励として，私が学生だったときにも何度か耳にしたことがあります。

しかし，指導教員は，学生の研究をより良いものにするためにできるだけのことをしたいと思っています。私は，学生との研究は，共同研究のつもりで取り組んでいます。卒業論文の内容が，学生との共著として学会報告に至ったこともあります。卒業論文の進捗を気にしない教員はいないと思います。一緒に仕事をする人に進捗等で心配をかけるのはよくないのと同様に，共同研究者に心配をかけるのもよくないでしょう。教員を共同研究者と考えてみるのも新しい視点になりうると思います。

今回は書くことができませんでしたが，研究で求められるアイディアのヒントについて三古（2006）に書いています。興味のある人は参考にしてください。

参考文献

三古展弘：外国書講読を通じて自ら考える：公共交通を対象として，国民経済雑誌別冊　経済学・経営学学習のために　平成 27 年度後期号（神戸大学経済経営学会，2006），pp. 9−17。